

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北関東)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前月同様、3か月前より売上は良く、新型コロナウイルス発生前の2019年度と比較しても、売上達成率が7割程度にまで改善している。新規感染者が激減しているためか、観光客、修学旅行生が大変多く来ている。
	◎	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス発生前とまでとはいかないものの、人出は戻って来ている。特に、ランチタイムはグループでの来店が増えている。
	◎	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、また、新型コロナウイルス新規感染者数が激減していることが最大の理由である。引き続き、感染対策を万全にし、新変異株をしっかりと抑えていけば、観光関連産業は持ち直していくのではないかと。
	◎	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・宿泊は、県内限定の割引等もあり、個人客を中心に稼働が戻ってきている。また、延期になっていたスポーツ関連の予約等にも動きが出てきている。料飲部門は、宴会需要は皆無であるが、ファミリーや4～5名の会食が増えている。
	◎	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・通常この時期に来園する学生団体に加え、新型コロナウイルスの影響で実施時期や行先変更になった学生団体も来園し、例年に比べて学生団体が5倍以上になっている。また、週末は天候に恵まれ、紅葉時期とも重なり、来園者数が増加している。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、宣言時に比べて飲食店等は日中の動きが良くなっている。ただし、夜は相変わらず、人出が鈍いようである。
	○	百貨店（店長）	来客数の動き	・平日、休日ともに、来客数が前年実績を上回る日が増加傾向にある。一方で、リベンジ消費やペントアップ等の効果はまだまだ低位と認識している。来客数の増加イコール売上増大とはなっていないのが現状である。
	○	百貨店（店長）	販売量の動き	・売上は、前年度比では103%となり回復基調となるものの、前々年度比では94%と新型コロナウイルス発生前の水準には戻っていない。そのため、現状はやや悪いものの、判断としてはやや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年度に比べると、特に、この11月から新型コロナウイルスの新規感染者が減っている関係で、今まで外出自粛で来なかった客が来店している。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・ボジョレーヌーヴォーの解禁や、各地で少しずつだが行事が行われて、予約弁当等の比較的単価が高い商材の動きが多かったため、やや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上103%、来客数101%、客単価101%となっている。新型コロナウイルス発生前までには戻っていないが、このところ客の買物の動きに、必需品だけではなく、くじ商材を買う等、趣味の物にお金を使う余裕が感じられるようになっている。
	○	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来店はするものの、購買に結び付かない場合が多く、まだ購買に慎重な傾向を感じている。
	○	乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・自動車販売店だが、半導体不足の影響で、来店客はあるものの、納車の期日が分からないため、例えば納車まで半年掛かるという話をすると帰ってしまう。とにかく、半導体不足が落ち着かないと駄目である。
○	乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、当社は周辺全て観光地なので、観光客がどっとやって来ている状態である。ホテル、売店、レストハウスのオーナー等、観光地で商売をしている業者の方の景気の良い話が、段々出てきており、前月、前々月と比べると、雲泥の差くらいに回復している。	

○	その他専門店 〔靴小売業〕 (経営者)	単価の動き	・今月は新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、やや持ち直してきたように思う。このまま新型コロナウイルス禍が落ち着いて、客足が増えるようになれば良い。客足は前年並みとまではいかないが、良い物が比較的売れ始めてきている。子供についても幼稚園や学校の行事が、コンパクトになっているものの、動き出してきている。
○	一般レストラン 〔居酒屋〕 (経営者)	お客様の様子	・来店時の人数制限はないものの、大人数での来店は少なく、来客数は平年には及ばない。ただし、来客の組数は日を追って増えてきている。国策が大きく影響すると思われる。
○	一般レストラン 〔居酒屋〕 (経営者)	来客数の動き	・少人数だが、徐々に宴会や会食が増えつつある。
○	都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除とともに、客の行動マインドが上がってきている。今月は宿泊や宴会の売上が新型コロナウイルス感染拡大後、最も多い。また、1か月の予約獲得者数も同様に最も多くなっている。
○	旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・宿泊を伴う修学旅行が実施され、遠足や社会科見学のバスの稼働もあり、やや良くなっている。
○	旅行代理店 (所長)	来客数の動き	・団体旅行は、一般やツアー募集はまだまだだが、教育旅行は完全に戻ってきている。個人旅行では、県民割が実施されているものの、Go To Travel キャンペーン待ちもあり、前回ほどの盛り上がりはない。
○	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・報道にあるとおり、観光地の人出の推移で、やや良くなっている。
○	通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が安定し、来客数や販売数は回復傾向にある。顧客側のマインド、政府側の規制緩和もあり、年末に向け景気回復が見込める状況である。
○	通信会社 (局長)	販売量の動き	・3か月前は、純増数 (加入件数-解約件数) は底だったが、回復傾向にある。
○	設計事務所 (所長)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大第5波が落ち着き、現在は以前の生活に戻りつつあり、外出など購買活動が通常になってきている。
□	商店街 (代表者)	来客数の動き	・幼稚園や学校行事が、少しずつではあるが実施され始めてきている。
□	一般小売店 [精肉] (経営者)	お客様の様子	・日暮れが早くなっているため、営業時間は短くなっている。一般の店でも制限が緩やかになって、人の動きが良くなっていると思うが、まだなかなか思うようにはいかない。
□	百貨店 (営業担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は低い水準で維持され、8~9月の緊急事態宣言下と比較すると来客数は改善している。自粛していた集客施策を再開したが、想定していた効果は得られず、依然として厳しい状況に変わりはない。
□	スーパー (商品部担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、人流が多少増えてイベントも開催されているものの、今月は来客数、売上に大きな変化はなく、横ばい状態である。
□	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者減少で、来店客が増えている。
□	衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されても、全くといってよいほど客が街に出てこない。特に、当店の客はかなり高齢で、ほとんどが年金生活の年代なので、どこかで身の安全を守る行動に出ているようである。
□	家電量販店 (店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数も減少しており、来客数は増えているものの、売上が伸びていない。
□	住関連専門店 (店長)	競争相手の様子	・日本の新型コロナウイルス感染状況は落ち着いているが、海外では感染拡大の兆候が見える。観光業や飲食業等は依然として経営が戻らないし、新型コロナウイルス発生前の状況にはなっていない。

□	住関連専門店 (仕入担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られ、消費にプラスの影響が出ると予想していたが、実際は余りこれまでと変わらない。その一因としては、やや気温が高めに推移し、季節商材の動きが鈍いことが挙げられる。
□	一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・客層がそれぞれ違うので他店と比べることは難しいが、組合の会合でも、良くなってきたという話は出ない。
□	その他飲食 [給食・レストラン] (総務)	販売量の動き	・社員食堂部門では、海外需要の好調持続で社員数が増加し、提供食数も増加している取引先がある。その一方、半導体や部品類の調達難に伴う生産調整や稼働日数減少により提供食数も減少となる取引先もある。受託先ごとにまちまちの状況で、総じて横ばいで推移している。レストラン部門は、少人数の取り込みができていところでは来客数の改善がみられるものの、総じて低調のまま推移している。
□	タクシー (経営者)	お客様の様子	・昼の動きが良かったので、前年同月と比べて28%の増収である。ただし、2年前の同月と比べると33%減少となっている。
□	競輪場 (職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除から2か月近くたち、売上はインターネット投票の影響もあり順調だが、来場者数には大きな変化はない。
□	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	それ以外	・来店客層は20代から高齢者までいるが、景況観は好転していない。新型コロナウイルスの終息を警戒感を持っており、経済観念は依然として変わらない。年末年始も盛り上がり、マスコミの報道とは大違いである。
□	設計事務所 (所長)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、徐々に飲食の機会は増えてはいるものの、新年会を自粛する企業や団体もあり、景気が戻ってきたという実感はない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・貸店舗等への引き合い等はかなり増えてきたが、新型コロナウイルス感染拡大第6波による緊急事態宣言がまた発出されるのではないかとということで、契約には至らない。動き出した段階だと思われる。
□	その他住宅 [住宅管理・リフォーム] (営業)	お客様の様子	・リフォームを含む修繕等において、通常の生活に支障がない場合、金額の多寡にかかわらず見送る客が多い。早めの修繕を行えば将来的には安価で済むことも多いのだが、やはり生活防衛意識が強い。
▲	一般小売店 [家電] (経営者)	販売量の動き	・半導体不足により、入荷の遅れている商材がかなりある。このままいくと、中小企業は苦しいのではないかと。
▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車、中古車の販売が前年同期に比べて30%ほどダウンしている。ただ、整備売上には余り変化がないので、ほっとしている。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・車両の登録状況は上向きになってきている。しかし半導体不足の影響で納車の遅延があり、販売できる台数の確保ができていない。
▲	通信会社 (総務担当)	販売量の動き	・部材不足による生産減少の影響で、人気商材の入荷が少なく、販売数が伸びない。
▲	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・半導体不足の影響で住宅機器の納品ができず、建築工事受注ができないため、土地の動きが鈍い。全く動きがなく、困っている。
×	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・給付金需要の終えんと、新型コロナウイルス禍の購買自粛ムードの継続、半導体不足による生産遅延での商材納期の不安定さ等、不景気要因は多い。今月の販売実績は前年比で85%と振るわずに着地予定である。
×	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・ホテル業界だが、忘年会シーズンにもかかわらず宴会予約が新型コロナウイルス発生前に比べて10分の1である。この先も大人数の夕食が戻ってこない。
×	タクシー (役員)	それ以外	・新型コロナウイルス対策が不十分で、人出がまだまばらである。見通しがつかない燃料価格の高騰や売上原価の上昇で、ずっとマイナスが続いている。
×	美容室 (経営者)	来客数の動き	・原油、非鉄金属、食料品等の国際価格が値上がりすると、国内マネーはどんどん流出し、日本の購買力を低下させてしまう。

企業 動向 関連  (北関東)	◎	—	—	—
	○	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体不足の影響も少し緩和され、稼働が上がったようで受注量も若干上向いてきている。原油等の値上げも懸念材料としてあるが、このままの回復を期待している。
	○	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・例年になく、忙しく稼働している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月に入って自動車の組立ラインが再稼働となり、計画どおりの納入ができています。油圧建機やロボット向けの仕事も堅調に推移している。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・現状、取引先等はやや良くなっているが、今後は分からない。
	○	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人流も戻りつつあり、人の動きがあると建物の修繕やメンテナンスも増えるため、仕事量からも景気の上昇がみられる。
	○	広告代理店（営業担当）	それ以外	・週末の居酒屋等の飲食店は、徐々に満席だったり、予約が取れない状況である。
	○	社会保険労務士	取引先の様子	・ランチ等の客は戻ってきているが、居酒屋等はまだ時間が掛かりそうである。忘年会の予約も悪いようである。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体不足が継続している。この先も同様の状況が続くと予測される。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・冬物家電、電気カーペット、ヒーター、電気毛布、加湿器等は、前年並みの物量を確保できている。新型コロナウイルスが落ち着いて、各業者の荷動きもあり、車両確保は燃料価格高騰もあってコスト増となり、利益は薄くなっている。
	□	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で延期になっていた管理業務が再開し、売上面では少し良いこともあったものの、最低賃金引上げによる人件費の増加や燃料価格高騰による経費増加の影響も顕著になった月である。
	□	経営コンサルタント	それ以外	・新型コロナウイルス終息後に向けた企業や人々の動きがうかがえる。しかし、街中や商業、集客施設は、一様に元に戻っているというより、ところにより差が生じている。それでも地域経済は動き出している印象がある。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・判断を、変わらないからやや良くなっているに上げるほどではないが、少しずつ良くなっている感じはする。何となく周囲の皆に元気が始めている。
	□	その他サービス業【情報サービス】（経営者）	取引先の様子	・特段の変化は見られないが、11月に入ってから引き合い、商談件数が共に増えてきている。取引先にも活気が出てきた会社が増えてきている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社だけの問題ではなく、親会社というか仕事をくれる会社の方でも、部材の入手が困難になってきており、もしかしたら生産が止まると言われている。当社も綱渡りで部品をかき集めて、高い部品を買って安く売っている状況で、非常に厳しい。
×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。与党政権誕生後、公共工事は順調で、業界としては有り難い。ただし、最近の報道では、ここ10年、日本では給与の伸びがなく、世界を見ると日本が最低で、結果として前々で与党政権の政策の反省すべき点として表されている。今後の現政権に期待したい。また、野党議員の発言により、議員在職期間が1日でも月100万円の文通費が支給されていることが分かったが、一般国民の感覚とはかけ離れている。報道機関もこのような情報を取り上げて欲しい。公共工事発注は前年比87%と厳しく、当社受注も前年比90%と厳しい状況である。	
雇用 関連  (北関東)	◎	*	*	*
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・製造業からの派遣依頼が増加している。

いしづか	○	人材派遣会社 (管理担当)	採用者数の動き	・サービス業の派遣採用が増加している。人材不足のために対応が遅れているものの、人材がいれば即採用の状況である。
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言の解除や新規感染者数の減少により、全体的に求人数が増加している。半導体不足で先行きが不透明との理由から、自動車関係の部品加工等では求人を探える動きもある。産業別にみると、主に製造業、運輸郵便業、宿泊、飲食業の求人が増加している。
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・飲食店は通常営業になったことから、パート求人が増加している。また、自動車部品関連事業所からの受注増加で、製造業の派遣社員募集も増加している。
	○	学校[専門学校] (副校長)	周辺企業の様子	・関連している企業では注文が前月比150%増になっており、年末に向けて需要は依然増加している状況とのことである。景気は上向きになってきている。
	□	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・年末年始商材の食品関係やギフト、冬物衣料等の動きは求人等も含めて活発さが若干みられる。住宅関連は外壁補修工事が結構入っていたようである。ガソリン価格がどこまで上がっていくか分からないが、食品を除いた製造業では、全般的に大分影響が出てきている。
	▲	*	*	*
×	—	—	—	